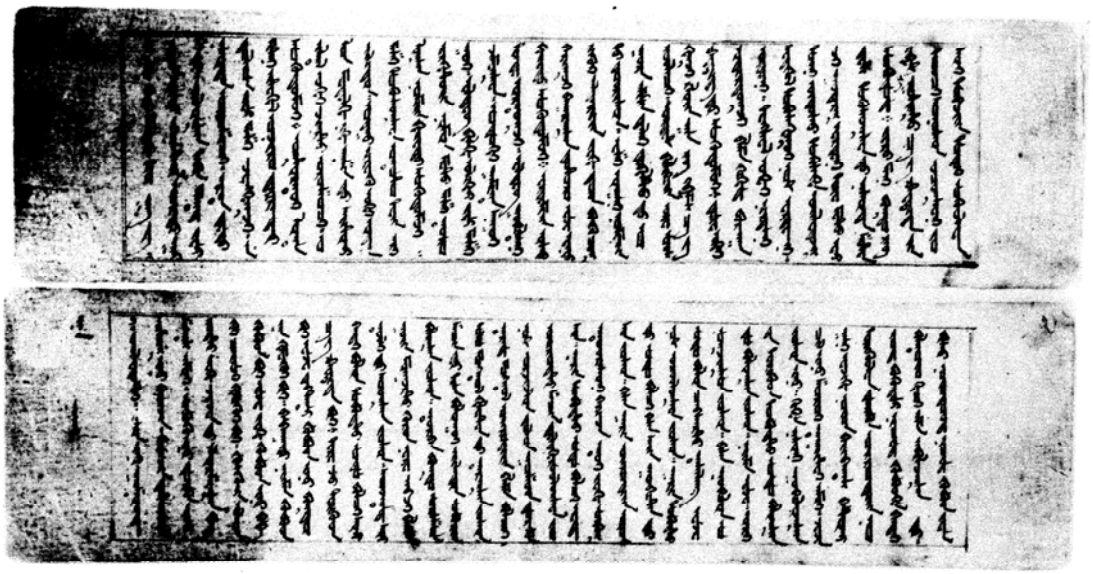
第二章

モンゴル諸族の文字使用の歴史



トド文字を作ったザヤバンディタの生涯を描いた「月の光」(トド文字：2-3 ページ目)

第二章　モンゴル諸族の文字使用の歴史

２－１，20 世紀以前から使われていた文字
２－２，20 世紀以降に使われはじめた文字

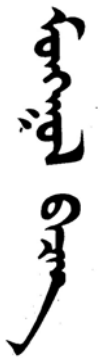
モンゴル諸民族は多様な文字を使い、自分たちの足跡を残してきた。

その中には契丹文字のように、未解読の部分を多く残した文字も存在するが、ここでは、モンゴル文字による記録が現れるようになる時代以降にモンゴル諸族によって使われた文字に関して簡単に紹介したい。というのも、モンゴル文字を除いて、20 世紀に至るまでには、多くの文字が作られては消えてゆくことになるのだが、それらの文字がそれぞれに何らかの意図を持って作られているからである。

モンゴル諸族が使ってきた文字として、ここで、紹介するのは、モンゴル文字、パスパ文字、トド文字、ソヨンボ文字、ワギンダラ文字、ラテン文字、キリル文字などである。

２－１，20 世紀以前から使われていた文字

モンゴル文字

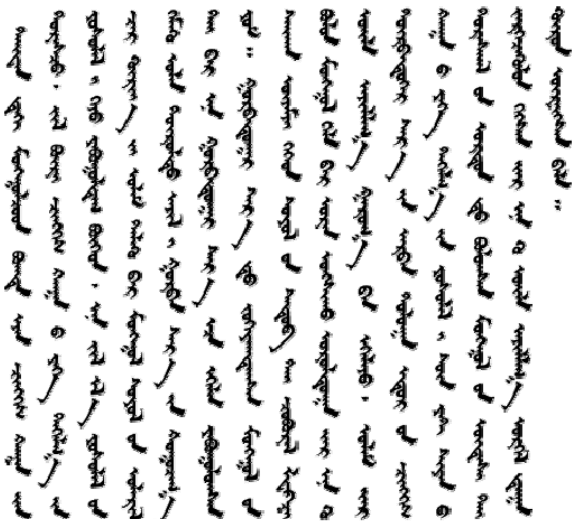


「モンゴル文字」

多くの変遷を経て、現在も中国の内モンゴルで使われ続けている文字である。ブリヤートでは1931年、モンゴル国では1941年までこの文字が公用の文字であった。

表記と発音が乖離しているため、モンゴル文字の代案としてさまざまな文字が提案されたが、20 世紀に至るまではその地位を譲ることはなかった。多くの文献が、この文字によって残され、また、増え続けている。

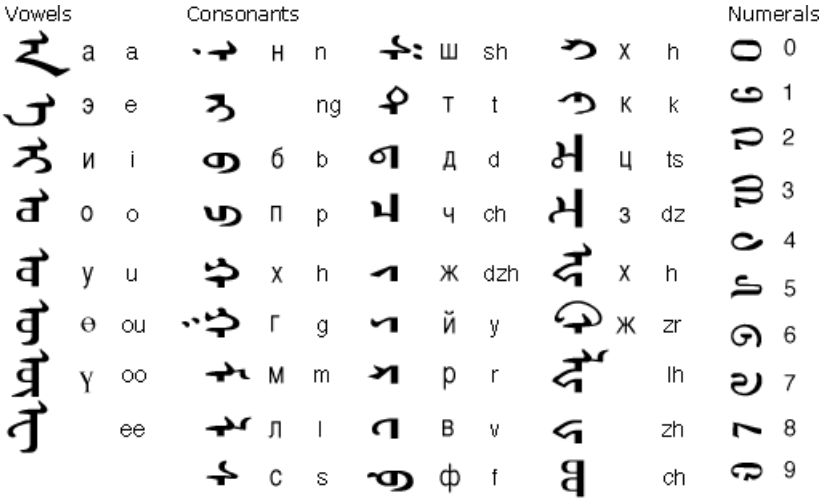
ウイグル文字に起源があるとされるこの文字をチンギス・ハーンの捕虜となったタタトゥンガが伝えたのが、モンゴル人がこの文字を使うきっかけになったと幻聴菱には伝えられているが、13 世紀には確固とした体系ができており、実際、伝わったのは以それ前ではないかと推測されている。学者によっては、文字を伝えたとされるウイグル人と同じ頃に、この文字を得たと推測しているものもいる[Шагдарсүрэн(1992), 134]。



モンゴル文字で書かれた文の一例

13 世紀中頃にゴンガジャルツァンによって著された『心の鏡(Ziruxen-u Toltu)』と、14 世紀初めチョイジオドセルによって著された同じく『心の鏡(Ziruxen-u Toltu)』と名づけられた本によってアルファベットや文法の諸事項が整理されたといわれるが、現存していない。字体の特徴は 12 世紀から 16 世紀までと 17 世紀以降では違っている。この字

体の変化は、ウイグル文字の字体の字体からモンゴル独自のものへの発展と見なされている。



モンゴル文字のアルファベット

冒頭でモンゴル文字の発話と綴りには大きな乖離があり、それが次々に新しく文字が提案された理由と書いた。それでもなお、生き残った理由は、以下に挙げる文字と比べ、速記するには非常に便利であったことが挙げられている。

パスパ文字

モンゴル語ではドゥルブルジン・ウセク（四角文字）と呼ばれる。13 世紀中ごろにチベットの高僧パスパが、フビライ・ハーンの命により作った文字である。モンゴル学者ウラジーミルツォフはこの文字を「13 世紀のモンゴル国際アルファベット」と名付けている[Владимирцов(1931b)]。元朝が支配する地域に共通する文字にする構想があったようで、モンゴル語のみでなく、チベット語、中国語、朝鮮語なども書き表せる。

「パスパ文字」

パスパ文字で書かれた牌

チベット文字を手本に作られているが、チベット文字と違い縦書きである。ハングルにも影響を与えたといわれている。

この文字は、様々な音素を書き表せるように文字を増やした煩雑で、速記には向かない。そのため、その使用は宮廷に限られていた。そのため、元朝が滅ぶと同時に使用されなくなった。そのた

パスパ文字のアルファベット

め、それほど多くのものが残っている訳ではない。ただし、かなりそのころの口語に近い形で書き残されたため音声的な資料としては貴重である。また、同様に、モンゴル語以外の資料も、その当時の音声を著す貴重な資料となっている。

トド文字

「トド文字」

カルムイク文字とも呼ばれる。1648 年、ホショート出身のラマ僧ザヤパンディタにより作られた文字である。文字の形はモンゴル文字に似ている。トドとは「明らかな、はっきりとした」といった意味であるが、モンゴル文字で曖昧とされた幾つかの母音と子音の書き分けが明確にされたことが特徴である。現在も新疆のオイラト系モンゴル人が使用している。また、現在、同じオイラト系のカルムイクではトド文字を民族の文字として称揚する運動が盛んである。同じくオイラト系のすむ西モンゴル地域でも使われていたようであるが、1920 年代の初めの段階では使われなくなって来ていることをウラジーミルツォフが確認している。

1980 年代、一時期、新疆のオイラト系モンゴル人たちも、トド文字を捨て、モンゴル文字を使用しようとした時期があったが、モンゴル文字にした場合、新疆で配分されている予算が削減されることがわかり、トド文字を使い続けることにした。

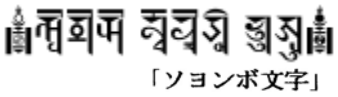
トド文字はオイラト系モンゴル人たちのための文字とする人も多いが、実のところ、モンゴル諸族全域に広めるための文字であったようである。また、モンゴル語があるのに何故わざわざ、この文字を作ったのかについては、17 世紀は短い間であったがオイラト系のモンゴル人の間で学問が盛んに振興された時期あり、チベットから仏教を通じて入ってきた言語理論の影響により発話を正確に再現することを重要と見たことと関わりがありそうである。なお、トド文字は、オイラト系モンゴル人が書き残した文献にはモンゴル文字という名前で登場することも多い。例えば、カルムイクのドンドク・ダシ・ハーンの出した命令に「全ての人にモンゴル文字を学ばせよ」とあるが、これはトド文字のことである。因みに、オイラト系の人々はモンゴル文字をホダム文字と呼んでいる

この文字によって残された文献は、仏教文献が多い。中には、もはやチベットでも残されていない文献が残されているという。ザヤパンディタ自身によっても、多くの仏教文献の翻訳がチベット語からこの文字で翻訳されているが、後に翻訳されたものと比較すると、原文に忠実な堅苦しい訳であるという。仏教文献にある名前などを正確に写し取ることにこだわったために、もともとモンゴル語にはない音素を書きあらわす文字が作られ、文字体系がモンゴル文字に比べ若干煩雑で、速記にはむかない文字となった。

この文字で書き残された文献で解くに有名なのは、表紙にあるザヤパンディタの伝記『月の光』や『オイラトの四ハーンの歴史』などである。

「トド文字のアルファベット」

ソヨンボ文字


「ソヨンボ文字」

1686 年に高僧ザナバザルにより作られる。

ランチャ文字を模して作られた文字であるので、音節を一文字とするが、音節の中で多様な要素を組み合わせることが可能である。右に一本太い線があるのが特徴的である。残された作品は少ないが、チベット語の作品をこの文字で印刷用に掘った版画が残っていたり、遊牧民の間で所有者の識別に使われたり、建築物の装飾として取り入れらたりしている。

ソヨンボ文字のアルファベット

また、ソヨンボ文字で文の始まりを表す文字は、独立をあらわすシンボルであり、現在のモンゴル国の国旗にも使われている。それはこの文字が、清の支配に対してばらばらになったモンゴルをもう一度再興し独立するが込められているからだという[Төв азийн(2001),263]。

トド文字同様、仏教文献の言語であるサンスクリット語やチベット語を書き表すための文字もあるので文字数は多く、さらにこの文字自体の作りが煩雑なので、普及しなかった。

２－２，20 世紀以降に使われはじめた文字

ワギンダラ文字

「ワギンダラ文字」

1905 年、ブリヤートのラマ僧ブリヤートのアグワン・ドルジーエフが作った文字。本編第三章で詳述するが、オイラトのトド文字から多くの要素を取り入れたといわれる。そのため、トド文字同様、発話をかなり正確に表記できるが、速記にはむかない。この文字で残された作品も数少ない。もともと、この文字を作った目的が正式な文字としてのものでなく、話し言葉との差異が著しいモンゴル文字学習の補助として、まず、この文字で慣れさせ、モンゴル文字へ移行させるためのステップとすることを作られた文字であった。

ラマたちの強い反対と第一次世界大戦のため、多くの支持をえることもなく消え去った文字である。

ラテン文字 Latiin yseg

Delgy surhalь.

Jk-Buxsa selьskd kulьtşturmar ik politiçesk çinrtə kədlmş kegdv.

Kulьtştürmin negdkç devsnd—xən saras avn xulhn sar kyrtl en selьsk bəəsn bədlən şinər xəvrylz orkv.

En selьskd oda, negn çign surhalь medg uga kyn uga. Cuharn surhalьtə bolv. Selьskar uturştan surhalь medgonь 319 kyn bilə, a bah surhalьtənь 158 kyn bilə. Kulьtştürmin aştnь 319 kyn surhalь medg ugahasn getlz baha surhalьtə bolcxav, a 158 kyn baha surhalь medg şkolan təksgəd surhalьtə bolv.

Jk—Buxsa selьsk mal-gerinь boln surhalь—erdminь kədlmşən kycəsn derəs, nutkin kycəkç parvlləd Ulan tug əgv.

En dora barlata surkç ygst derk biçg omşçkad xəry əktn.

1) Jk—Buxst jun bolz?
2) Jamaran cagt bolsmв?
3) Jamaran jumn kycəgdz?
4) Nutgin parvlən juhar şangnz?

Nezədər boln brigadar evrənь ersinь gazet iim jum biçtn:

1) Surhalintn kədlmşin bəədlig, 2) Səcialistiçesk dərldən boln udarniçestvo jahz kegdz jovxig, 3) Mal-gerin boln surhalь—erdmin palan jahz kyçz jovxig, 4) Kolxozin əsltig biçtn oln dundin kədlmş jamaranar kegdz jovxig boln kex kədlmşən biçtn, 5) Baaxn kykdin şkolin kədlmş jahz kədlz jovxinь biçtn.

38

Toktavr.

Surhalь surçəx ulstan toktavr jahz biçgdginь zaz ək mən. Toktavr biçxlərn jamaran organizac xurg kez bəəxinь xama xurg kegdz bəəxinь biçx mən. Kezə bolьzəxig, kedy kyn xursig, xurg hardz bəəx axlaçin boln toktavr biçx seglətrig şidz avdmn.

En dora barlata toktavr xələtn.

Toktavr № 5.

Şorvin nutga, Jk-Buxsa selьsovetin çledydin xurg 1931 zilin xulhn sarin neg şind bolьzənə. Xurgt bəəx ulsin ut toonь 26 kyn.

Xurgin axlaç: Sanzin B.
Seglətr: Dorzin B.

Kundx tərmyd:

1) Kultştürmar kegdsn kədlmşin dig.
2) Surhalin çergydig şanglhn.
3). Yrmg tərmyd.

1. Songsv: Kulьtştürmar kegdsn kədlmşin digig Nəmnə S. kelv.

Şidvr: Kulьtştürmar kegdsn kədlmş ik sən boln çinrtə bolv. Tavn sarin erkcd kex mal-gerin boln surhalь erdmin kədlmş kycəgdv. Surhalin „Brojdin„ nertə cerg junas çign əlyga çidl – çimgən ərvlyga kex kədlmşən kycəz orkv.

Oda mana selьsk delgy surhalьtə bolv. En sarin 5 şind surhalin cergig, boln surhalь sursn əmtig cuhlahad kulьtştürmin digər ik xurg kex mən.

2. Songsv: Surhalin cergydig şanglhnə uçrar Bembən M., yg kelv.

Şidvr: Kulьtştyrmar kədlsn cergəs sənər kədlsn arvn ky şyz avxd horvn kynəs komisь harhij: 1) Žyrə A. 2) Şarapa S, 3) Dorzin B.

En komis surhalь syrsn medətə ulsas sənər sursn uls şyz biçz avlxa. Tednig bas şangnxmn.

Xurgin axlaç: **Sanzin B.**

Seglətr Dorzin D

39

本編の中心を構成することになる文字である。第三章、第四章、第五章にて詳述する。

正式に公用で使用される文字として採用されるのは、カルムイクで 1930 年、ブリヤートでは 1931 年であり、モンゴルに関してでも 1930 年、ラテン文字化の方針が明らかにされるが、結局、ほぼ実現されずに終わった。

1920 年代初めからソ連邦で始まったラテン文字化運動の波がブリヤートやカルムイク、そして、モンゴル人民共和国にも押し寄せ、実際ブリヤートとカルムイクにおいてはかなりの成果を上げた。

実際のところ、ブリヤートではすでに 20 世紀初めの民族運動と連動する形で言語、特に文字に関する議論が活発に行われており、ワギンダラ文字や、このラテン文字を使って啓蒙しようという意見が出されている。1910 年にサンクトペテルブルグで出版されたバラーディンの『ブリヤート文学選』は、ラテン文字により、様々なブリヤートの方言の方言が表記できることを証明するものであった。しかし、受け入れられず、ソヴィエトでのラテン文字化運動を待った経緯もある。

ラテン文字が使用された時期は短く、ソヴィエトの他の民族同様、カルムイクでは 1938 年、ブリヤートでは 1939 年にラテン文字に代わりキリル文字が採用される。しかし、この時期、両地域では多くの作家が活発に活動し、多くの作品がラテン文字で残された。しかし、作家の多くが 1937, 8 年前後の粛清で消えてしまったため、再版もされず、発掘を待っている状態のものもある。

内モンゴルでもラテン文字化を考えた時期があったが、それほどの成果はなかった。

キリル文字　Кириллүсэг

ロシア文字ともいわれる。ラテン文字同様、本論において検討の中心的課題となる文字である。第三章、第四章、第五章にて詳述する。

Аа	Бб	Вв	Гг	Дд	Ее	Ёё	Жж	Зз	Ии	Йй	Кк
a	b	w	g	d	ye/yö	yo	j	j (dz)	i	j	k
[ɒ]	[b]	[v, w]	[g, k]	[d]	[je, jø]	[jɔ]	[ʤ]	[z]	[i]	[j]	[k]
Лл	Мм	Нн	Оо	Өө	Пп	Рр	Сс	Тт	Уу	Үү	Фф
l	m	n-, -ng	o	ö	p	r	s	t	u	ü	f
[l]	[m]	[n]	[ɔ]	[œ]	[p]	[r]	[s]	[t]	[ʊʊ]	[ʊʊ]	[f]
Хх	Цц	Чч	Шш	Щщ	Ъъ	Ыы	Ьь	Ээ	Юю	Яя	
x	c	č	š	šč	hard sign	ы	soft sign	e	yu/yü	ya	
[x]	[c]	[ʧ]	[ʃ]	[ʃʧ]		[ɨ]		[ɛ]	[ju]	[ja]	

ブリヤートやカルムイクにおいては個人的な覚え書き用には20世紀以前から使われていた。

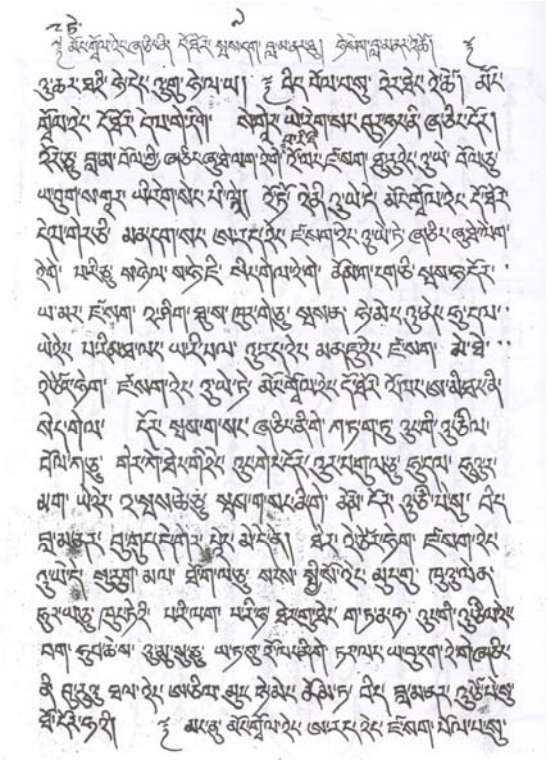
カルムイクでは1924年に、それまでのト　ド文字に替えて採用された。1930年にラテン文字に移行、1938年にはキリル文字を再び採用する。ブリヤートにおいても1938年にラテン文字からキリル文字化が決定されている。モンゴルでの政府による正式採用は1941年である。1950年代、内モンゴルにおいてもキリル文字化の運動が盛り上がった時期があったが成功しなかった。

モンゴル文字のアルファベット

Аа	Әә	Бб	Вв	Гг	hh	Дд	Ее	Ёё	Жж
a	ä	b	v	g	h	d	e	ë	ž
[a]	[æ]	[b]	[w]	[g~ʁ]	[h]	[d]	[je/jɤ]	[jo]	[ʒ]
Жж	Зз	Ии	Йй	Кк	Лл	Мм	Нн	Нң	Оо
ž	z	i	j	k	l	m	n	ṇ	o
[ʤ]	[z]	[i]	[j]	[k/q]	[l]	[m]	[n]	[ŋ]	[o]
Өө	Пп	Рр	Сс	Тт	Уу	Үү	Фф	Хх	Цц
ø	p	r	s	t	u	ü	f	x	c
[ø]	[p]	[r]	[s]	[t]	[u/w]	[y/w]	[ɸ]	[x]	[ʦ]
Чч	Шш	Щщ	Ъъ	Ыы	Ьь	Ээ	Юю	Яя	
č	š	šč	″	y	′	è	ju	ja	
[ʧ]	[ʃ]	[ʃʧ]	[ʔ]	[ɯ]	[ʔ]	[e]	[ju/jy]	[ja/jæ]	

カルムィク語のキリル文字アルファベット

使用された文字には、他に元朝秘史の残された漢字や、チベット仏教影響の大きな影響下にあった時期に個人的に用いられ、革命期には一時期、ラマ僧のための新聞で用いられたチベット文字などがある。



ラマ用にチベット文字で書かれたモンゴル語の新聞の一ページ

本章ではモンゴル諸族の文字使用の歴史を簡単にふり返った。

ここまでが序論である。第三章から、本論へ入ってゆきたい。